

## ○「民話のふるさと遠野」を訪ねてみませんか！

胡四王史談会では、12月1日（金）に矢沢地域振興会と共催で遠野市内の旧跡・名所見学の研修バス旅行を計画しています。胡四王史談会の会員以外の方でも参加を受け付けています。

日時：令和5年12月1日（金）

矢沢振興センター08時30分集合・40分出発

矢沢振興センター帰着は16時10分頃予定

会費：2,000円（入館料、昼食代）

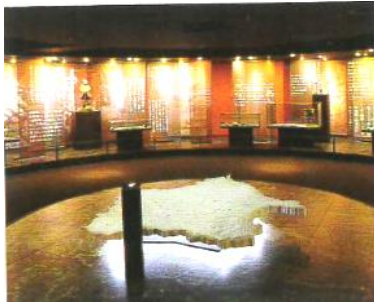
申込期限：11月22日（水）までに

矢沢振興センターへ電話にて（23-2171）

申込願います。なお、定員28名になった時点で締め切らせて頂きます。

見学場所：遠野市立博物館・南部神社・鍋倉城三の丸・（ガイド有）たかむろ水光園（昼食）・とおの物語の館・遠野城下町資料館・卯子酉様・道の駅遠野風の丘

共催：胡四王史談会・矢沢地域振興会



遠野市立博物館



とおの物語の館

## ◎ 文化祭の成功を願い！展示会場準備

11月11日（土）・12日（日）開催の矢沢地区文化祭へ向けて、11月9日に矢沢地域振興会理事ら13名によりパネルの搬入や展示会場及びステージ会場の設営を行いました。文化祭当日は肌寒い天候が予想される中で区長さんたちの熱い思いが伝わってきました。なお、展示品の搬入は11月10日に行われました。



## ◎ 矢沢地区小地域福祉活動計画 第2回策定委員会開催

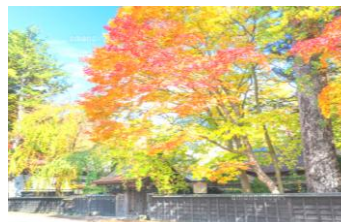
標記会議は、9月21日に引き続き11月1日に矢沢振興センターにおいて、佐藤和見委員長の司会で行われました。矢沢地区小地域福祉活動計画（案）が事務局から一部修正のうえ提案され、承認されました。完成版は各戸へ配布される予定です。続いて、計画達成に向けた具体的な動きについて、①やってみよう 学び合う 矢沢 ②ささえ合い 手をつなぐ 矢沢 ③わか者が活躍する 矢沢 の「やさわ」3項目について、各分野の委員が意見や感想を述べました。これらの意見も参考にしながら具体的な取り組みを進めていくことを確認しました。



右から説明する社協の神山さん、社協の担当者・担当課長、森先生、委員長、副委員長

## □ 紅葉が進む 抱返り溪谷・青柳家 散策 □

第3回自然探訪教室は、福盛田弘さんの引率で10月30日に20名が参加し、秋田県の抱返り溪谷と角館歴史村青柳家の散策を行いました。紅葉と天候にも恵まれ参加者からは好評を頂きました。感想として、「シニアに最適なコース、企画に感謝。抱返り溪谷散策路は整備されていて、日頃の膝痛も感じずに、気分爽快の一日でした。」また、「参加者が毎回同じ人が多いので、初めての人も参加できると良いのでは？」とのご意見を頂きました。



○ 交通事故防止啓発活動 ⇒ 高齢者宅訪問

交通安全協会矢沢分会（大森松司分会長）と母の会（高橋純子会長）では、10月21日に堰袋と安野地区の高齢者50世帯を訪問し、チラシや事故防止啓発グッズを手渡し交通安全への呼びかけをおこないました。



くれぐれも交通事故にご用心を！



○ 地域をパトロール 安全安心へ向け広報活動

防犯協会矢沢支部（多田章支部長）と交通安全協会矢沢分会では、防犯と交通安全への広報活動を行っています。

二つの団体の役員は交替で子供たちの通学時を中心に矢沢地域内を広報車でパトロールしています。



矢沢防犯交通指導車

【矢沢地区球技大会結果】11月5日（日）

○ 卓球の部

順位	行政区名
1位	高松第二
2位	高木第一
3位	東十二丁目
4位	高木小路
5位	高木第三



「羽球の部」高松第二以外の行政区はメンバーが揃わず高木小路との親善試合となりました。



昔取った杵柄？

○ 11月19日（日）午後1時開演  
— 第14回矢沢地区伝承大会 —

矢沢に連綿と続く伝統芸能の隆盛と伝承を地域の皆さんと共に進めましょう。

ご来場をお待ちしております！

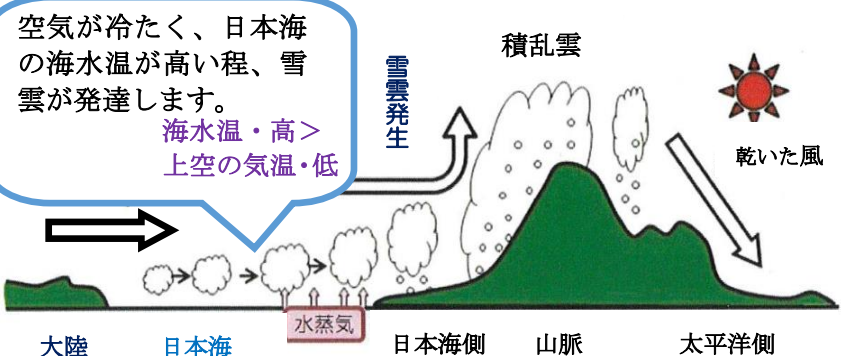
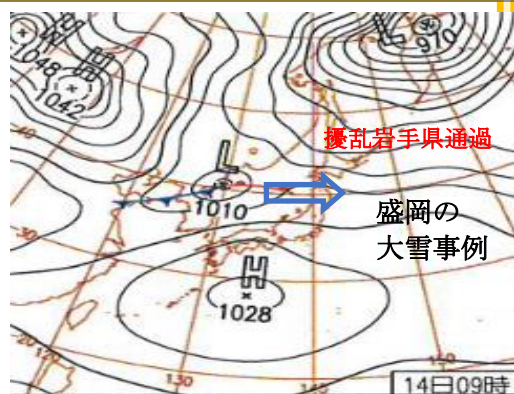


【事務局員のつぶやき】（これから雪のシーズンとなります！）

盛岡の初雪の平年日は11月9日となっていますが、今年は11月9日現在、初雪の便りはありません。岩手県に大雪をもたらすパターンについてのお話です。一つは内陸の山沿いを中心とした大雪です。これは強い冬型の気圧配置のときに強い北西風が雪を運んできます（下図模式図参照）。この場合には上空の寒気の程度と等圧線の走行や偏西風の流れにより雪の降り方に大きな違いが出来ます。つまり強い寒気が西日本に流れ、岩手県ではそれほどでもない場合があります。例えば上空の寒気が強くても、等圧線の走行が南北に立っている場合には寒気は北陸や西日本に入り、岩手県が大雪とならない場合があります。二つ目の大雪パターンは、沿岸地方中心の大雪です。これは南岸低気圧が三陸沖を発達しながら北上した場合です。この低気圧が北上することにより東寄りの風が寒気を引き寄せ北上山系で上昇、沿岸地方を中心に雪雲を発達させます。もう一つは日本海側から進んできた擾乱（低気圧や気圧の谷）が岩手県の上空を通過する場合です。低気圧の通過コースによっては記録的な大雪となる地域があります（下図参照）。

今年の冬は暖冬傾向を予想していますが、暖冬の場合でも低気圧の動向によっては一時的な大雪の恐れがあり、最新の気象情報での対応が必要となります。

盛岡の大雪事例「南高北低の気圧配置で気温上昇のパターンですが、前日までの寒気が残り、盛岡では明け方晴れて気温低下、降水開始時はマイナスの気温で日降雪34cm



2018年（平成30年）2月14日地上天気図 盛岡で日降雪量34センチ、西日本で春一番

冬型の気圧配置の時に、日本海側で雪が降る模式図（上空の寒気—海水温 ⇒ 大きい程不安定化大）